

同志社・新島かるた

石川 眞 弓

石川：同志社国際学院の石川です。よろしくお願いたします。実は私もコロナに感染してしまいまして、まだ病床を離れられませんので、少し失礼ですが、今日は声だけで参加させていただきます。今、横井先生からご紹介がありましたように、今年の7月に「同志社・新島かるた」が、同志社エンタープライズさんより出版されました。私はこのかるたを企画致しましたが、その制作の背景をお話しさせていただきたいと思います。

同志社国際学院初等部では、6年生の秋学期になりますと、修学旅行で新島襄の足跡をたどります。コロナ禍前は、毎年ボストンに行っておりました。去年は行けなかったのが、熊本バンドのルーツを探ろうということで熊本に行く予定だったんですが、これも駄目になり、今年もう一度熊本を組んでおりますが、まだどうなるか分かりませんが、基本はボストンに行く、ということで毎年準備を進めております。

その修学旅行に行く前の事前学習として、春学期から、イースターの行事が済むとすぐに半年間、新島襄の生涯や同志社設立に関する学習を行っております。

その事前学習の参考図書としまして、本井康博先生が監修されています『マンガで読む新島襄』2巻を、6年生になると必ず最初に黙読してもらっています。このマンガが非常によくできておりますので、この2巻を読むと、だいたい新島襄の生涯の概観が頭に入ります。そのあとで『新島襄への扉』という、同志社諸学校の聖書科の先生方が共同執筆された、とてもわかりやすい新島襄学習の入門書があり、これをテキストにして学習を進めていきます。あと、参考書として『現代語で読む新島襄』。これらの本を参考にしながら、グループ学習で新島襄の生涯をすごろくにするというようなことを行

っています。

最後に、『学問と情熱』というシリーズの紀伊國屋書店のDVD。これは、内容的にはかなり古いのですが、これを見て、総仕上げみたいな感じにして、修学旅行に臨みます。修学旅行から帰還後、新島学習の集大成として、かるた作りを行います。

授業の中では、読み札も子どもたちに考えてもらいました。今まで学んだ内容を振り返って、自分がこれがポイントだと思うものを、1項目になりますけれども、一言で表現するというのをやってもらいます。その表現した内容を、今度は絵札にすることで、その学び取った内容を視覚化するというのを、授業では行っていました。

今回「同志社・新島かるた」の制作のことで、私は昨年度から創立150周年記念事業の未来創造プロジェクトのメンバーとして企画チームにおりましたので、かるた作りを提案致しました。幸い、採用していただいたので、かるた制作の運びになりました。

この目的としましては、同志社諸学校の生徒さんたちの、新島学習の一助になればいいなと思ったことと、こうやってかるたで新島先生の生涯に親しんでいくことで、母校への愛が育まれていけばいいなと思ったことです。それから、同窓生だけではなくて、同志社に直接関係のない方々にも、かるた遊びを通じて自然と同志社への理解者が増えていけばいいなということも考えて企画させていただきました。

授業では学習のために読み札も子どもたちに考えてもらっていたのですが、今回は売り物にするということで、内容のムラを防ぐために、読み札は全面的に教員側、つまり私の方で用意致しました。それに当たりまして、事務局の方にご紹介していただいたのが、北出至さんという方です。大阪の校友会の先輩で、過去に「同志社歴史かるた」というものを考案されたことがあり、それは品物にはなっていないけれども、その内容が掲載されているリエゾン・クローバー倶楽部の設立10周年記念誌を拝見しますと、例えば「今出川 歴史を刻む キャンパスに」というふうな感じで、とても丁寧にかるたの考案がなされていることが分かりました。

せっかく先輩の方がこのようなものを作られたのであれば、それをなるべ

く生かすような形で、私も読み札を作らせていただきたいと思います。ただ、これは大人向けになっておりますので、子どもが遊ぶものに変えるということで、内容はなるべくこのままで、言葉はもう少し子どもでも分かりやすい簡単な言葉にしてということを考えて、「今出川 重要文化財 多い」のような文言に変わっております。他にも同様な例があります。北出至さんのご了承の下で、2枚だけそのまま使わせていただきました。

今度は絵札の方です。これは原則、2021年度の6年生児童が授業中に描いた作品を原案としております。それを元に、大学漫画研究会の方々が6人でリライトをしてくださいました。これは間に事務局が立ってくださって、上手に手配していただいたので、できたことです。まれに子どもの絵でも使えないものもありましたので、その場合は漫画研究会の完全創作になりました。なるべく資料を集めて、時代考証とか正確な描写を心掛けてもらいましたが、少し時代が前後したイラストになっている場合もあり、そこはちょっとご容赦いただきたいと思います。

1組と2組がありますので、両方のクラスでそれぞれ同じ文字について考えています。だから基本は異なる2枚の絵がありますが、2人の子どもの絵が一つになった絵札もあります。

あと一つ。漫画研究会の人たちのイラストももちろんですが、このかるたの一番の売りは、絵札の裏に本井康博先生の解説が付いていることです。これで、かるたの教育的価値が非常に高いものになっております。たぶん幼稚園児から小学校低学年ぐらいまでは、ゲームをするのに夢中だと思いますが、少し大きくなってくると、この裏の文言が自分で読めるようになります。そうすると、自分が取った絵札を一生懸命丁寧に眺めることで、その内容が頭に入っていくだろうということも、狙いとしてあります。

あと、細かいところのこだわりをいいますと、かるたですので少し格調高さも欲しいということで、読み札の方は明朝体を使っております。逆に裏の解説文はポップな字体で、親しんで読めるようにという工夫をしております。

使用法ですけれども、今年の6月に実はうちの学校で教員のキリスト教研修をやりなさいと言われて、急ぎょ体育館でかるた大会を行いました。結構

みんな喜んで取り組んでいたと思います。うちの学校はネイティブの先生が多いものですから、不公平になってはいけませんので、ネイティブの先生ばかり固めて一つのグループにしました。お一人だけ、スマホを眺めたりしている方がいらっしゃるのですが、気のないそぶりをしながら、最後の方は猛烈に反撃されて、このグループの勝者になってしまわれました。

それ以外には、学習やクラス親睦会の演目として、それからバスの待機時間にこれを使ってくださっている先生方も、すでに何名かいらっしゃいます。

すみません。報告としては以上のような感じになります。

横井：はい。ありがとうございます。今、私の手元には「同志社・新島かるた」がございます。パッケージに読み札と絵札が入っており、文面、読み札とその背景についての説明書も付いております。すでに同志社エンタープライズを通じて実際に販売されているものでございます。オンラインで購入できますので、ぜひご注文をいただければというふうに思います。

石川先生、ありがとうございます。